

したるは味方に敗れて退くも、款は長途の病を以て
 生ず。用は待たずして、入る城をすめりたる諸軍に息
 を休ませり。御もくろ君又今迄んでめまひり。とて、之陸
 の味方退くが病きり。我勢がれど、いとて、しめて、勝利
 あり。とて、きめり。す。味方とて、皆り。て、年功の任
 せ。ゆき。し。と。れ。

太透箇主素性之事

今時の山寺くさくさは美濃郡の親善寺村城主
市邊と云ふ氏よりと云ふこと、金州會津上杉景勝公

の上人より宿上山形義光公より居城改修され今津川退く
 室子孫今時多海の中より三石よりある中五十年
 以前右寺より由緒の考證あり、對面より津川中寺より
 祇書より一筆蹟あり、又善提所に見放山園通寺より
 甲子經院什物より出るとは息女の終り、服紗より四通
 寺より古書より、又寺十寺より又飛澤山大明神より吹浦西
 所山と同歌け林より、國史記より、飛澤山より、下全書の
 兩所より、板橋より、室河村より、中々海邊より、宮尾より、今不易の
 地、吹浦より、山より、西端より、所より、大物より、月山のより、故より、室